

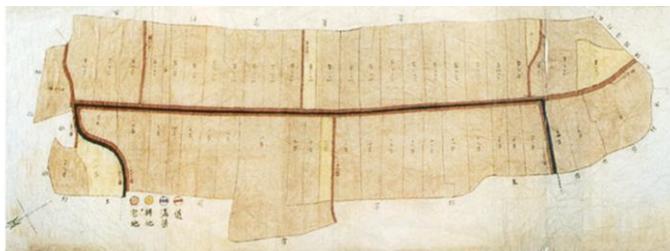
# 下郷町大内宿(福島県)

## (1) 保存地区の概要

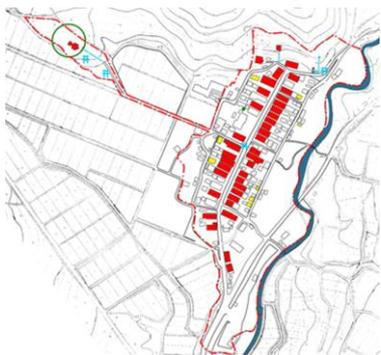
地区名	下郷町大内宿
種別	宿場町
面積	約11.3ヘクタール
選定年月日	昭和56年4月18日
特徴	



下郷町大内宿伝統的建造物群保存地区は、会津若松城下より下野今市に至る下野街道（会津西街道）の宿駅の一つで、この地方の宿場形態の典型的なものの一つとして、現在も往時の形態をよく残している。江戸時代末期から明治にかけての茅葺き寄棟造りの主屋が妻面を街道に並び、山々に囲まれた周囲の自然環境も一体となって良好な景観を形成している。



明治16年大内地区丈量図



## (2) 保存地区のあゆみ

昭和45年度(1970)	福島県民俗資料緊急調査
昭和47年度(1972)	文化庁・福島県による集落・町並み調査
昭和52年度(1977)	大内区は伝建地区の選定を受けないと県に報告
昭和54年度(1979)	大内宿保存対策協議会発足
昭和55年度(1980)	下郷町伝統的建造物群保存地区保存条例公布
昭和56年度(1981)	重要伝統的建造物群保存地区に選定
昭和61年度(1986)	第9回全国町並みゼミ会津大会開催 第1回大内宿雪まつり開催
昭和62年度(1987)	大内宿保存対策調査（見直し調査）
平成3年度(1991)	旧用水路発掘調査(防災事業に係る記録保存)
平成5年度(1993)	大内宿総合防災施設事業完了、防災計画策定
平成8年度(1996)	残したい日本の音風景100選(大内宿自然用水)
平成10年度(1998)	全国伝統的建造物群保存地区協議会総会開催 茅保存庫完成
平成11年度(1999)	大内宿防災会第4回防災まちづくり大賞受賞
平成13年度(2001)	下野街道（歴史の道）国指定史跡
平成17年度(2006)	手づくり郷土賞大賞(国交省)受賞
平成18年度(2006)	美しい日本の歴史的風土100選（古都保存財団） 大内宿茅場がふるさと文化財の森に設定
平成21年度(2009)	平成百景(読売新聞社)
平成26年度(2014)	平成26年度地域再生実践塾開催
平成28年度(2016)	第39回全国町並みゼミ大内・前沢大会開催
平成29年度(2017)	大内宿保存対策調査(見直し調査)～30年度まで
平成31年度(2019)	大内宿保存対策調査報告書発行

# 下郷町大内宿(福島県)

## (3) 保存地区の保存と整備

昭和57年度(1982)	東側生活道路完成
昭和58年度(1983)	大内宿町並み展示館着工、昭和59年度完成
昭和61年度(1986)	西側生活道路完成
平成元年度(1989)	電柱移転工事完了、用水路整備
平成2年度(1990)	電話支障線移転完了
平成3年度(1991)	防災施設事業(貯水槽、配水管、屋外消火栓、自火報等)
平成4年度(1992)	防災施設事業(配水管、自火報等)
平成5年度(1993)	防災施設事業(放水銃、屋内2号消火栓等)
平成9年度(1997)	大内宿駐車場、公衆トイレ整備
平成11年度(1999)	防災施設事業(避雷器、回転灯非常ベル)
平成16年度(2004)	ふるさと文化財の森センター完成(町並み展示館内)
平成22年度(2010)	駐車場増設



電柱移転【前】



電柱移転【後】

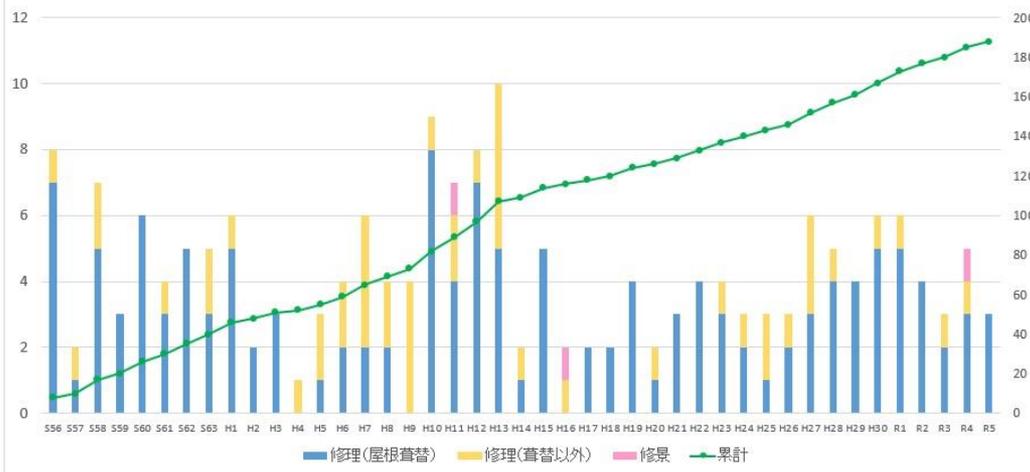


修景【前】



修景【後】

大内宿 修理・修景件数(昭和56年度～令和5年度)



全戸に整備されている  
屋内2号消火栓

大内宿町並み展示館内  
ふるさと文化財の森センター  
(茅葺き技術研修センター)



# 下郷町大内宿(福島県)

## (4) 保存地区の活用とまちづくり

これまでの町並み整備と、交通網整備などの影響もあり、多くの観光客が訪れている。東日本大震災による原発事故の風評被害や新型コロナウイルス感染症流行の影響により大幅に減少したが、コロナ禍後はインバウンド需要の拡大などにより回復傾向にある。

特定物件を活用した飲食店や物産店が営まれ、大型連休や鎮守の祭祀、雪まつりなどのイベント時には多くの人々が訪れ、活気があふれている。

一方、景観への配慮が欠ける行為やオーバーツーリズムの問題、空き家問題への対応が急務となっている。今後は保存と活用を両立していくため、より一層の対策が求められている。



# 下郷町大内宿(福島県)

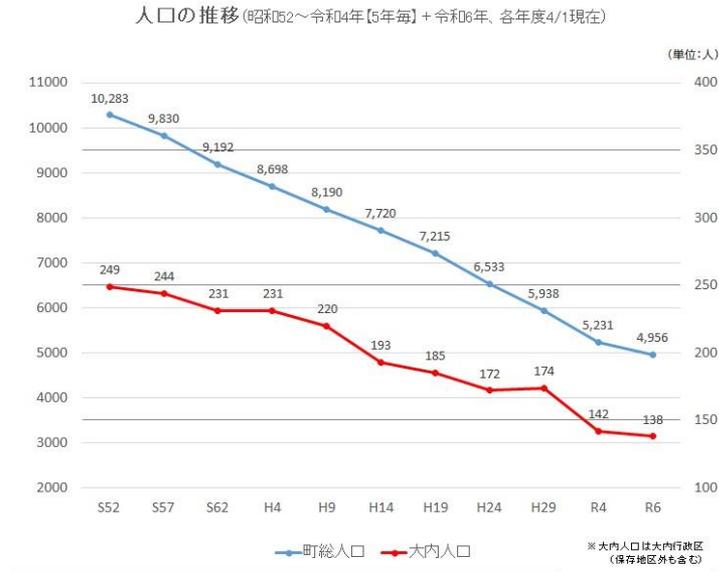
## (5) 住民等の取組

右の表は下郷町の人口と大内地区（大字大内、保存地区外の字沼山地区を含む）の推移。過疎化により人口は減少の一途をたどっているが、大内地区の減少率は町全体よりも緩やかになっている。

（昭和52年を100とした場合、令和6年の人口は町全体で48%、大内地区で55%）

観光を中心とした生業の創出により、若い世代が保存地区に住み、子どもを産み育てる環境が整っていることが要因と考えられる。

地域には相互扶助の精神「結（ゆい）」が残っており、建造物の保存のみならず、伝統や文化、屋根葺き技術が若い世代へ継承されている。



屋根葺きの練習



屋根葺き



茅刈り



消防団による点検



半夏祭り (町指定無形民俗文化財)



防災訓練 (放水銃)